

「第2次都立動物園マスタープラン」の概要

第1章 第2次都立動物園マスタープランについて

【計画期間】

- ▶ 現在のマスタープランの計画期間に続く10年間〈令和3(2021)年度から令和12(2030)年度〉

【基本的考え方】

- ▶ 都立動物園を取り巻く様々な状況の変化を的確に捉え、世界をリードする都市としての魅力を高めるとともに、地球環境や生物多様性が保全された持続可能な社会の実現を図るために、動物園・水族館の持つ4つの機能を強化していく
- ▶ SDGsの達成に寄与していく

【計画対象】

- ▶ 恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園・大島公園動物園の5園

第2章・第3章 都立動物園の目指す姿と取組の方向・達成に向けた具体的取組

	魅せる	伝える	守る	極める
目指す姿	快適な観覧環境と魅力的な展示や催しで、あらゆる人々をひきつけよう	野生動物そして地球への理解を深めるため、多様な情報を伝えていこう	野生動物の多様性、地球環境を守り、次世代に確実に引き継いでいこう	野生動物保全の技術を継承し発展させ、科学的な知見を極めていこう
取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 展示施設や催しの魅力向上を図り、国内外からの多様な来園者をひきつける ▶ 多様な来園者が快適に過ごせ、ホスピタリティに満ちた、満足度の高い都立動物園を創る 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ターゲットを定めた多様なプログラムやふれあい活動を実施し、効果的に情報を発信する ▶ 多様な主体との協働の取組を進め、環境学習をより積極的かつ効果的に実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 希少種の保全など生息域外保全の取組を強化すると共に、生息域内保全にも貢献していく ▶ アニマルウェルフェア(動物福祉)に配慮した飼育展示や施設整備を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ これまで培ってきた展示手法や飼育繁殖技術等を継承・発展し、発信していくことで、動物園・水族館の発展に寄与する ▶ 調査・研究の一層の推進と外部研究機関等の多様な主体との連携を図る
具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> ① 展示の魅力向上とプログラムの充実を図ります ② 多様な来園者を呼び込む取組を強化します ③ 快適な観覧環境とホスピタリティマインドを向上させます ④ 地域との連携を強化します ⑤ 多様な情報発信ツールの効果的活用を進めます 	<ol style="list-style-type: none"> ⑥ 園内での体験型環境学習プログラムを強化します ⑦ 園内で常設型の学びの情報発信を強化します ⑧ 園外での環境学習プログラムを強化します ⑨ 教育機関との連携を強化します ⑩ ボランティアとの協働を推進します 	<ol style="list-style-type: none"> ⑪ 生息域外保全を推進します ⑫ 飼育展示計画を策定します ⑬ ズーストック計画を推進します ⑭ アニマルウェルフェア(動物福祉)を推進します ⑮ 生息域内保全に貢献します 	<ol style="list-style-type: none"> ⑯ 展示手法を磨き、飼育繁殖技術等の継承・発展・発信に取り組みます ⑰ 野生動物保全の取組を強化します ⑱ 生物工学技術の活用を進めます ⑲ 他の動物園・水族館や研究機関との連携を進めます ⑳ 幅広く調査・研究への支援を行います

第4章 各園の目指す姿と取組の方向

【各園の目指す姿(抜粋)】

▶ 恩賜上野動物園

日本を代表する園として引き続き日本をリードし、「生きた博物館」として、希少種や特徴的な種をバランスよく展示し、子どもから大人まで、楽しみ学べる総合動物園として発展していく。

▶ 多摩動物公園

多摩丘陵の自然を活用し、ダイナミックな展示と生息域内・生息域外を問わない幅広い野生動物の保全活動を推進していく。

▶ 葛西臨海水族園

楽しみながら海や川・池沼の自然への認識、水族についての科学的理解を深めることで、「人と生きものと水」の関係を結びなおし、伝え、紡いでいくと同時に、新たな水族園につなげていく。

▶ 井の頭自然文化園

「入門動物園」としていつでも気軽に楽しみ、充実したふれあい体験を通じ、野生動物を守る心を育む園をつくとともに、日本に生息する野生動物の保全と啓発に取り組んでいく。

▶ 大島公園動物園

小さな面積の中で微妙なバランスで成立してきた「島」の生態系を守るため、生物多様性の重要性を発信し、理解を促すことで、東京の島々の生き物を次の世代につなげていく。

【各園の目指す姿の実現に向けて】

▶ 魅力的な施設の重要性

来園者へのサービスを維持し、多様なニーズに応える、適切な施設の更新

① 整備・飼育・環境学習部門の連携強化による効果の最大化 ② 環境負荷の低減を図る ③ アニマルウェルフェア(動物福祉)の推進

▶ 来園者・動物・職員にとって安全安心な都立動物園

来園者、動物、職員の安全確保に向けた、体制、施設、設備の構築、新興感染症への対応

▶ 効果的・効率的な運営

効率的運営により、経費の削減や環境保全などにもつなげるとともに、削減した経費は、動物の暮らしや観覧環境の改善を図る

第5章 都立動物園マスタープランの実現に向けて

- ▶ 魅力的な展示を通じ、あらゆる人々が分け隔てなく楽しむ場を作り、様々な体験により野生動物や地球環境の重要性を伝える
- ▶ 「東京」の持つ都市としての発信力を生かし、マスタープランの取組を広く国内外に発信し、地球環境の保全に貢献
- ▶ 都と(公財)東京動物園協会が密に連携し、動物園人材の育成
- ▶ 都立動物園を都立として持続させていくためには、都民の理解と協力が不可欠であり、効率的な経営を意識した管理運営

○ 人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継ぐ

○ 誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のためのSDGsの達成に寄与